

演題	コロナ禍におけるご利用者の生活の変化について
----	------------------------

副題	～コロナ禍でもその人らしい生活を～
----	-------------------

法人名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉事業団
-----	--------------------

施設名	横須賀老人ホーム
-----	----------

発表者名 (職種)	
--------------	--

共同発表者	
-------	--

共同発表者	
-------	--

共同発表者	
-------	--

共同発表者	
-------	--

都道府県	神奈川県
------	------

住所	横須賀市野比5-5-6
----	-------------

TEL	046-848-1761
-----	--------------

FAX	046-848-6866
-----	--------------

メールアドレス	yokosuka-kanri@kanagawa-swc.com
---------	---------------------------------

URL	http://www.kanagawa-swc.com/yokosuka
-----	--------------------------------------

今回の発表施設 またはサービスの 概要	横須賀老人ホーム(長期入所206床、短期入所19床) 要介護状態にある方が入所され、日常生活上の援助、機能訓練、健康管理、療養上の看護等のサービスを提供します。また、最後まで施設での生活が続けられるように、医療的ケアにも取り組んでいます。
---------------------------	--

《取り組んだ課題》

コロナ禍における感染対策を強いられる状況下において、通常の感染対策に加え、濃厚接触の職員や、当ホーム内においてクラスターの発生が2回発生した際の感染対策強化期間に、ご利用者の生活にも影響が見られるようになりました。

事例を基にケアの検討過程を専門職としてどのように、ご利用者の日常生活を守り、尊厳のあるケアを実践するべきかの評価、考察を報告します。

《具体的な取り組み》

ご利用者A様:78歳。女性。要介護度3。アルツハイマー型認知症の診断があるが、ADL、IADL、認知能力等が比較的保たれており、入所フロアにおいて、家事活動を中心に活動へ参加して頂き、ご本人の生活満足度も高く保たれていました。

令和3年5月に、当ホームの同一建物内にある養護老人ホーム(特養と別フロア)にて、新型コロナウイルスのクラスターが発生しました。施設全体で、感染対策強化期間として対策が講じられ、A様の毎日の日課である洗い物や、下膳作業を行えなくなり不満気な様子が見られました。

毎日の日課に変わる作業への参加を検討していなかったことは、ケア上の課題であり、当ホームの”尊厳を守るケア検討委員会”にて、ケアの考え方やアドバイスを受け、A様について改めてアセスメントを行い、ICFの情報整理シートを使用して、ニーズに対するケアを検討し実践しました。

《活動の成果と評価》

コロナ、コロナと何かと言い訳に使っている傾向にあると思います。

実際に、私たちも言い訳に使ってしまう場面も多いです。

しかし、「やらせない。」「やってはいけない。」「コロナだからできない。」という考え方ではなく、コロナ禍でも私たち専門職として、「コロナ禍だから」ではなく、「コロナ禍でも」ご利用者の尊厳を守り、日常生活を過不足なくケアするという基本的な指針に、変わらないのではないかとこの事を明確にできました。

《今後の課題》

- ・アセスメントしたA様のニーズについて、すべてのケア方針を実践に繋げる事は出来ませんでした。

- ・A様に、丁寧に説明しなければいけない場面で、他者の対応と重なってしまった事で、感染対策についての説明を丁寧に出来なかった場面もありました。

- ・趣味活動を楽しめる環境をつくるまでには至りませんでした。